

総合水沢病院の大規模改修は、現実的なのか？ 総合水沢病院の現状視察

民報
おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町3丁目59
Tel 24-2021
Fax 24-2049



地下ボイラー室にて

総合水沢病院の建物を管理している担当者に各階を案内していただきながら状況の説明をいただきました。

【雨漏り】
7階食堂窓際、7階通路(写真下)の雨漏りのあとがありました。調査・修繕を行ったが、原因がわからず改善できていません。風向きにより雨漏りがひどくなります。

日本共産党市議団は、5月23日、改めて総合水沢病院の建物について調査を行いました。市議会でも、一部議員から「新医療センターの移転新築」ではなく、「子どもの世代に負担させないよう」耐震診断を実施して補強改修し現在の病院で「継続して運営すべきだ」との声があります。そこで、改めて病院の建物の実態調査を行いました。



7階 天井の雨漏りの跡



地下ボイラー室の雨漏り処理状況
ブルーシート

地下のボイラー室(写真右下)の冷凍機の上まで配管を伝わって雨漏りが入ってくることです。ブルーシートで雨水を集めていました。

【建物内の下水管】
水回りでは、下水管に、カルシウム等が沈着し流れが悪くなっています。説明によるとウォシュレットが壊れたり、トイレのつまりは2カ月に1回ぐらいあるとのこと。また、管のサビが保温材の被覆の上まであがつてきたりしています。

【手術室】
手洗い場の水道は、使用できませんが、手術室外の看護師が使用する水道はさびた茶色の水が出ます。手術室でそうなるしまうと手術ができなくなってしまう。

全体的に古い造りのため、使用する機材の電源が取れない、床が傾いている(ボコボコしている)、空調が効かず、医師が汗だくで手術を行っている状況です。一般的に手術室の床は、長時間の立ち仕事に対応するた

【地下室】
地下階はボイラー室となつていますが、大きな蒸気ボイラーが2台あり、毎日交代で運転しています。古くなってボイラーの煙管を毎年溶接修繕しながら延命して運転しています。冷凍機(冷房装置)は大小各1台あり、日中は大きい装置、夜は小さい装置を運転して対応していますが、気温35度を超える猛暑日には能力が不足するとのこと。

め、柔らかい素材で、つなぎ目のないものになっています。しかし、総合水沢病院は傾いているうえに、溝があり、手術器具の針など落とすと、探し出すのがたいへんです。担当看護師長は、「私は患者さんと医療スタッフの安全を確保することが仕事ですが、今の状況では安全とは言えず、不安の中で仕事している。安全な医療を提供できる環境を望んでいます」と話しました。

【天井内】
建設後、追加で配管・配線工事が行われていて天井内に入れないところが多くある。

【アスベスト】
旧館は、全体にアスベストが入っている、新館も壁にアスベストが入っていることが分かっています

「消費税インボイス制度の中止を求める意見書採択についての請願」採択

20日、市議会総務常任委員会

5月20日、総務常任委員会が開催され、2月議会で継続審査となっていた請願第10号「消費税インボイス制度の中止を求める意見書採択についての請願」(請願者・国民大運動実行委員会議長 小原隆穂)を採択することが決定しました。

委員会では、参考人として奥州商工会議所専務菊地浩明氏が、日

本・東京会議所が行った実態調査結果を説明し、奥州商工会議所には加盟事業所から、消費税の2割軽減、仕入れ税額控除の経過措置の延長を望む声が多く出されているとの説明がありました。

採決では、請願採択に反対する意見はなく全会一致で採択することが決まりました。

大規模改修での病院継続には相当な費用が必要

施設の視察後、山形直見事務長から、以下の説明がありました。

1981年1月19日に建築確認があり1982年の建築で新耐震基準をみたしていない。

耐震診断時、修繕費に概ね43億円(大規模改修 平成25年試算)の改修費を見込んでいる。実際に大規模改修となるとコンクリートの強度、鉄筋の腐食の調査をする必要があり、相当な金額を要することになります。

